



平成 25 年 2 月 15 日 第 2 卷(第 44 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害対策本部 TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

*** 目 次

1. 現地支援活動報告
2. 現地感想文
3. 災害対策本部会議・議事録
4. 災害対策本部からのお知らせ
5. 事務所感想文



石巻 日和山公園・鳥居より海と被災地域を望む

*** 1. 現地支援活動報告

活動期間:2013年 2月9日~2月11日

武山 ゆかり (東京都 豊島区在宅医療相談窓口)

3日目は雪マークのはずでしたが、お天気に恵まれ、全日程、走り回ることが出来ました。

1日目は、渡波地区3軒を回り、5時近くなると風の冷たさに涙！北海道、石田さんさえ「さぶっ！」

2日目は春の日差しに7軒訪問後、牡蠣小屋や牡鹿に足を延ばし、駆け足で「原発 PR センター」も見学、原発ボールペンをもらいました。PR センターからは、敷地全容は見えません。ジオラマと目の前の海、排気塔を見ながら、何となく想像する程度。隠されているのか、とつい疑いの目。「核廃棄物」収容ドラム缶のなんと頼りない作りかと震撼。怖くて早々に引き揚げました。でも石巻はしっかり20キロ圏内。

3日目の午後は、雄勝の被災した支所前の「伝八寿司」で昼食中「宮城県沖震度2」地盤が悪いせいか結構揺れました。津波が雄勝病院3階まで来た地域。いい気持ちはしませんでした。ぐるめ F1 グランプリ出場予定の「雄勝丼」は超おいしくいただきました。

「雄勝まごのて診療所」石井医師夫妻とお会いし、今後の協力をお伝えしました。「おがつ新聞」にもそのうちソーシャルワーカーの活動の掲載をお願いしてきました。

<参加を検討している方へのメッセージ>

おいしいものがたくさんあります。来てください。今は牡蠣、ホタテ、ちぢみ雪菜、たら鍋！鍋で遅くまでソーシャルワーカー談義はサイコーです。



石巻 女川復興商店街・RCI 提案の地域振興策

「アトム通貨」

*RCI:石巻医療圏 健康・生活復興協議会

活動期間:2013年 2月9日~2月11日

宮内 宏子 (東京都 更生保護法人東京実華道場 ステップ押上)

初日から継続中の訪問に同行させて頂き家族や親せきの支援で生活が安定した方、精神的に少し余裕ができ外に向けて発信する力を回復された方のお話を伺い少し安心しました。

反面、ご家族を亡くされ酒量が増えたり、近隣に対して閉鎖的になられた方など状況に依って感じ方やその後の生活ぶりは異なることも痛感しました。皆さんに共通して感じたことは我々の訪問に対し好意的であったことです。辛いお気持ちや投げやりな発言も含め感情を吐露してくださることは並大抵のことではなく、これまで先人の SW や協力団体の皆さん方との信頼関係構築の結果なのだと感じました。

その他被災地各所を周り現状に愕然とし何度も言葉を失いましたが、無くした物の大きさから逃げずに新たに創りだそうとする力も感じました。それはわたし自身の日々を振り返り生き方について考えるきっかけとなりました。

2 日目の朝、サポートセンターまでランニングをしたのですが元気な声で「おはようございます。頑張ってください！」と声をかけてくれた少年達、道を尋ねるとさわやかな笑顔で親切に教えてくれた方など温かい思いをたくさん感じ、人見知りのわたしも石巻の皆さんに受け入れられた気がして嬉しくなりました。

素晴らしい景色や温かい人達、美味しい食材などを知るうちにもっともこの街を知りたいこの街を知らない人達に知ってほしいとも思うようになりました。多くの人達にこの現状を見て感じて欲しい。そして穏やかで美しかった港町の姿を想像しその姿に戻るために必要なことを一緒に考えていきたいと感じました。

他人事ではないってことを。その力が疲れ果てた地元の人たちのパワーになればいいなど単純にそう思いました。それが初回活動の一番の感想です。

<参加を検討している方へのメッセージ>

案ずるより先ずは始めてみるのだと思います。この街は傷ついた分強く優しい人達の多い街だと思います。寄り添う気持ちがあればお互いに寄り添えるのではないのでしょうか。

*** 2. 現地感想文

*** 2/6 久保木 美由紀 (現地担当)

石巻は本日雪です。ようやく雪が解け車の運転がしやすくなったと思ったらまた雪…。運転が苦手なものからすると、雪道は本当に大変です。

保健師さんと同行訪問の際、「こんな天気の日には震災時を思い出します。」と話され、昨年までは外に出ることが苦しかったと。早く忘れたいのだけれどと話されました。

2年を経ようとしています、外見ほど立ち直ってはない現実がわかりました。

先日、災害復興住宅の申し込みが始まったとのニュースが TV でも新聞でもされました。中里地区の住宅 40 戸分です。申し込みが多ければ抽選になると。新聞の情報だと多くの方が申し込みに来られていたようです。

本日、申し込みの説明会が専修大学であります。多くの方の参加が予想されます。

*** 2/7 久保木 美由紀 (現地担当)

大川小学校周辺の川をせき止めて行方不明児童の捜索が始まったというニュースが昨日流れました。

いまだ見つからない児童のご家族の気持ちを思うと心が痛みます。

早くご家族のもとに帰れる日が来ますように。



女川 仮設住宅 3 階建て

***2/13 鈴木 弘二 (三島共立病院)

おっかけのケース訪問をさせて頂きました。当時の悲惨な様子から復興した様子(自宅)は見られましたが、外面上ではわからない、内面上の精神的サポートを要するケースがいくつか見られました。クライアントの立場に立った支援活動や生活背景に立った支援活動が必要と感じる場面がいくつか見られました。

また、コミュニティーが破壊された中で、今後の活動は、以前のコミュニティーをどう再構築するのか、できなければ、新しいコミュニティーづくりを構築するシステム作りが必要と思いました。

ケースのおっかけでは、協力員が専従では、はりつかないため、ケースを引き継いでいく目的で「クラウド」というシステムを作ったことは、画期的です。このシステムを今回の援助で知ったことは大きな財産です。

静岡はいつ震災が起こるか不安な土地柄です。今回の大きな収穫を静岡の地へ持って帰ることや活動報告を行うなかで、知り得た内容を広めることが、私の課題であると思います。

最後に現地職員で、私を快く受け入れて頂き、さまざまな場面で配慮して頂いた久保木さん、富永さんに、お礼申し上げます。ありがとうございました。

(活動期間:平成25年2月4日~8日)

***2/13 石田 潔 (小樽中央病院)

今回で5回目の支援参加になります。

1年ぶりに武山さんとご一緒させて頂いて、今回はまだ見た事の無かった雄勝や牡鹿の方面を回らせて頂きました。

なかなか復興の進んでいない地域もありますが、その中であって、強い熱意をもってまちづくりに取り組んでいる多くの方にお会いすることが出来ました。

地元では地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます。ここでつながらせて頂いたまちづくりのプロフェッショナルから、さまざまな事を学ばせて頂き、地元小樽のまちづくりに活かしていきたいと思っています。

現地責任者の皆さん、ご一緒させて頂いた協力員の皆さん、本当にありがとうございました。

(活動期間:平成25年2月9日~12日)

*** 3. 第 12 回災害対策本部会議 議事録

実施日 2013 年 1 月 26 日(土)18:00～

出席 佐原・坪田・久保木・梅崎・東・金子

欠席 笹岡・飯島・篠原・武山・山田・富永

(敬称略・順不同)

1. 災害対策本部 事業全体について

(1)財政面

2012 年度 12 月 31 日現在の資料添付

(2)人事

●職員

【現地】 責任者:久保木美由紀
富永千晶
*畑中良子(現在調整中)

【事務所】 依光則子(2013年 2 月 4 日～バトン II 編集担当)
金子小夜子
三輪清子(2013年 1 月 30 日退職)

●協力員

【現地】 ・今後は 1 日あたり上限 2～3 名
・期間は原則として移動を含まず中 3 日以上(特に初回参加者は 3 日以上)
※大阪府協会より、2013 年度も月 2 名の派遣計画あり。今年度と同様、継続して受け入れを行う。

【事務所】 月～金 10 時～17 時

●本部メンバーの現地入り予定

佐原部長 訪石予定 1 月 30 日～2 月 1 日

(3)NPO みんなの教室への協力について

石巻市に存在するであろう2000人の発達障害のある方への支援が現在放置されている状態。

そこで、医師、教育者、ソーシャルワーカー(福祉関係者)、歴史学者(石巻の土地柄を含んでいかないといけないため)の 4 名のチームで「実態の洗い出し、課題抽出、市への提言」までを 3～4ヶ月の短期プロジェクトとして行うことへの協力依頼が来ている。

石巻市周辺の小・中学校すべてにパンフレットを配布し、電話相談が入ってきている。

※ みんなの教室について

発達障害者の個別指導を行っている教室。

理事長の青木彰氏は、仙台で学校教員をされていて、大崎市にきてから障害児教育 12 年間程関わり、退職後、2010 年にみんなの教室を設立。

(4) RCI の 2013 年度との協働について

RCI としては、2013 年度は個別ケースのフォローはしない方向で動いている。在宅被災世帯の専門職フォローについては現地機関に引き渡していく予定ではあるが、一部現地機関への引き渡しに難しいケースについて日本協会がフォローをしていく方向で検討中。

<活動場所>

RCI より C 棟チーム王冠が今年度で撤退後、協会が使わないかという打診あり。

<記録について>

無料で提供してもらっているクラウドは 2 年間の契約なので、来年度からどのような扱いになるのかが未定。クラウドが継続できない場合、全部紙ベースにして、カルテを作ることも検討が必要。

ケースが終結した時には紙ベースの記録を最終的に市に返していくことになる。終結後の紙ベースのケース記録の管理方法についても要検討。

(5) 年報の作成について

現地スタッフ 1 名が作成を担当。一冊とし、総会で配布できることを目標とする。

(6) 現地災害時の安否連絡体制について

緊急時には、携帯電話などは通じない。メールまたは LINE などが繋がりやすいため、緊急時用として、スマートフォンの設置を検討。

2. 事務所支援活動

(1) 協力員マニュアルの作成について

事務所側で作成したマニュアルを現地側でチェック。事務所側で最終体裁を整え次第、順次協力員へ公文書とともに郵送を行う。

(2) 「医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ」について

バトンⅡの打ち合わせ予定 2月7日(木)19時～

出席予定：佐藤杏、東、依光(バトンⅡの編集担当)

3. 現地支援活動

●月報・市報告書(資料参照)

「12月」

北上ケースは3月末で地元の機関に引き渡す予定。

●仮設自治連合会

自治会長が住民トラブルの対応に追われている。災害コミュニティーのルール作りがなされていない(自分たちはある程度任せられるけど権限がない)という声が上がっている。

●誰でも住み続けられる街を話し合う会

さわやか福祉財団が主催している会。

北上、雄勝、牡鹿に住んでいた被災者たちが、元の土地に戻るかどうかを話し合う会。市側からは、今の段階で戻るかどうかの決断を迫られているが、戻りたいけれど、今後その土地に生活機関、医療機関ができるか等街づくりの全体構想が分からないと戻ること自体が決められない状態である。

●被災地における多職種協働セミナー

協会の活動について現地スタッフが発表

●「被災地における専門職連携」シンポジウム @東北福祉大学

石巻市内の地域包括支援センターの職員の発表あり。被災した状況で現地機関として外部の支援者と連携を取るのが難しかったとの報告あり。

●恵み野団地支援

お茶っこのニーズはもうない。役員会(2か月に1回)に参加させてもらって、継続フォローしていく形に変更予定。

4. 次回予定

●2月の災害対策本部会議日程

*会議開催時は未定だったが、その後、決定したため次頁ご参照ください。

●2013年度の上半期・石巻現地事務所の長期休日予定

4月30日から5月6日まで

***4. 災害対策本部からのお知らせ

【1.協力員募集】

***現 地

現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。

中3日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

*3月の協力員さんの参加予定はまだまだ空いております。ご都合の付く方、ご協力をお待ちしております！

活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

また、これから応募されて活動に参加される方に向けての簡単な資料を作成中です。

***事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1~2ヶ月に1回でも構いません。ご協力をお願い致します。

【2.災害対策本部会議】

2月の災害対策本部会議は3月1日(金) 19:00~ 協会事務所にて開催します。

【3.書籍販売】

『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン 1』の販売を行っています。

発災から平成23年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。



***注文用紙はホームページからダウンロードできます。

http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



*** URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

*** 5. 事務所感想文

*** 2/12 依光 則子(災害対策本部事務所)

対策本部勤務、一週間。現地協力員の方々のスケジュール調整や送付物の改定作業など、こうして現地支援をサポートする活動が行われてきたのだなあ、と感慨も新た。同時に、現地からの情報発信が十分でなかったかなと反省です。「支援のバトンⅡ」編集作業にも徐々に参加開始。バトンⅠの魂を引き継げるよう、頑張ります！

*** 2/12 金子 小夜子(災害対策本部事務所)

災害支援ニュース発行窓口が鈴木大介さんから狩野寛子さんにバトンタッチされてから2回目の発行となります。原稿が遅れてご迷惑をおかけしております。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 2 月 15 日 第 2 卷 44 号
作 成 群馬県医療ソーシャルワーカー協会



上毛カルタ：㊦かせんどう偲ぶ 安中杉並木

(群馬県 安中市安中)